

Vogue. — [American ed.] (ヴォーグ)

New York : Fashion Company, 1892—

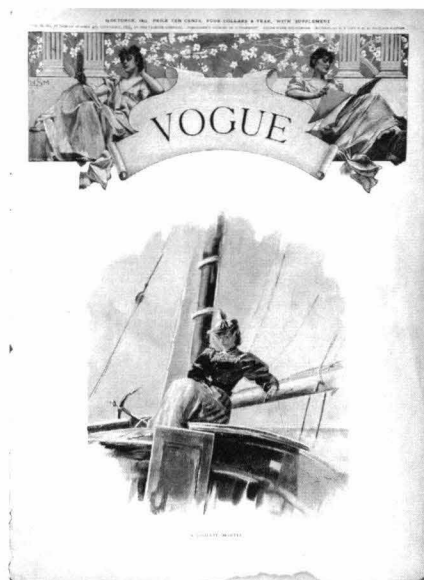
Hiler p. 884

19世紀にはファッション誌が数多く発刊された。アメリカでも世紀後半には服飾を中心題材とする女性誌が創刊されるようになり、1880年代には18誌が出版されていた。当時のヨーロッパの雑誌の大半が、出版期間が短く、読者数も一部を除き限定されていたのに対し、アメリカではファッション誌全体の発行部数が順調に伸び、20世紀には数百万部という膨大な量に達するまでになる。当時の雑誌のいくつかは、現在も発行されつづけている。そうした雑誌の一つが「Vogue」である。

本誌は1892年12月17日、アーサー・ボールドウィン・ターニュアー (Arthur Baldwin Turnure) らによりニューヨークで社交界情報誌として創刊された。週刊で、定価は10セント、年間購読料は4ドルだった。当初の体裁は、縦横がおおよそ32×23cm、二つ折りの中央を2か所金属針でとじた、表紙を含め24ページから40ページ程度の薄く簡素なもので、誌面は表紙を含め100%モノク

ロームだった。カラー印刷の表紙が定着するのは1910年代になる。雑誌の内容は、当時の他のファッション誌同様、服飾関連記事、話題の出来事、それに小説や詩などの読物が中心だった。しかし、極めて格調の高い論説や、社交界の冠婚葬祭からトレンドな社交イベントまでを告知する「Society」欄には、本誌のためのクラス・マガジン (階級志向の強い雑誌) としての性格が明確に現われていた。

ターニュアーは1906年に亡くなり、その後1909年に「Vogue」はコンデ・ナスト (Condé Nast) に買収された。ナストの下、「Vogue」は、ファッション誌としての性格の明確化とビジュアル化、そして広告の強化が大胆に実施された。顔である表紙はすべて色刷りとされ、ヘレン・ドライデン (Helen Dryden)、ジョルジュ・ルパップ (Georges Lepape)、ベニート (Benito) ら気鋭のイラストレーターを表紙デザインに登用して、アーティスティックなインパクトを高めていく。「ファッション写真」が登場するのは1908年秋だが、以後徐々に増加し、アドルフ・ド・メイヤー (Adolph de Meyer) やエドワード・スタイケン (Edward Steichen) ら初期ファッション写真家が活躍して、ファッション写真の分野が確立していった。当時のファッション写真はスタジオでの徹底演出に基づいたものだったが、「Vogue」のスタジオは「ハリウッドにも劣らない」という設備を誇ったという。その後、60年代以降プレタポルテの時代に呼応するかのような、スタジオ「外」のファッション写真が台頭する。ファッション写真の軌跡は、現在に至るまで、「Vogue」誌上で明確にたどることができるだ



1893年10月19日号表紙



1988年11月号 アナ・ウィンターによる表紙

ろう。こうしたファッション写真のみならずファッション誌のデザインおよび感覚面全体の向上に多大な貢献をしたのがアレクサンダー・リバーマン（Alexander Liberman 1912－1999）だった。アートディレクターのリバーマンが写真家アーヴィング・ペン（Irving Penn）と組んで確立した50年代「Vogue」のイメージは、世界のファッション写真に影響を与えたといっても過言ではない。こうしてビジュアルなファッション誌へと変貌した「Vogue」は部数も大きく伸ばし、ファッション誌を代表するファッション誌としての位置を確たるものとした。

1950年代まではハイソサエティのための高級ファッション誌だったが、60年代以降は伝説的な「セレブ」編集長のダイアナ・ヴリーランド（Diana Vreeland）の下、パリ・オートクチュールを芸術性高く写真表現する先鋭的ファッション誌へと変貌する。しかし、メジャー誌でもあった

「Vogue」は大衆読者の嗜好変化に対応せざるを得ない。70年代に入ると経済的低迷や働く女性の増加に対応して生活感のある「リアリズム」路線へと大きくシフトした。「賢いショッピング」など実用的ファッション・ガイドンスがたびたび取り上げられるようになる。世界的な経済好況の80年代後半以降現在は、再びファッション指向の強い雑誌へと路線変更した。

現在の編集長アナ・ウィンター（Anna Wintour）は、若くしてリバーマンの目にとまり、イギリス版「Vogue」や「House and garden」編集長を経て、1988年に本誌編集長となった。ヴリーランドはフランスのクチュールを愛し、後継のグレース・ミラベラ（Grace Mirabella）はアメリカの既製服スタイルを好んだが、イギリス人のウィンターは、アメリカとヨーロッパのスタイルを結合させて「インターナショナル」あるいは「グローバル」なファッションとしている。ウィンターの最初の表紙（1988年11月）はジーンズのモデルにビーズ使いのラクロワ（Lacrox）のジャケットを組み合わせて登場させた。ウィンターは「ミックス・マスター」の役割を採用し、レトロスタイルやオートクチュールファッションと最近のストリート風スタイルとをうまく合わせる。若さとトレンド性がウィンターの「Vogue」の特徴であり、20歳を越えたいわゆる「Xジェネレーション」を定義し追求しつつ「hip（小粋）であること」をテーマにしつづけている。言葉もスカート丈同様に变化するが、特に栄枯盛衰が激しいファッション・ボキャブラリーについても、ウィンターの影響は大きい。1991年には「eclecticが流行語である」とし、1996年春のコレクションで「Edgy」を用いたのもウィンターの「Vogue」だった。

当初の週刊から、1910年以降は月2回の発行となり、1973年以降現在は月刊。また、1916年にイギリス版、20年にフランス版が発刊され、これらに加え現在はイタリア版、スペイン版、子供版、男性版など、世界中で何種類も出版されている。1999年には日本版も発刊された。

本館には、草創期の「Vogue」が1893年10月19日号以降保存され、ほかにイギリス版、フランス版なども収集されており、100年余にわたり今日までつながる本誌は、20世紀ファッションの形成とファッション情報の変容を検証する貴重な資料となっている。（古賀令子）